

## H23年度 大明小学校の教育についてのアンケートの集計結果 12月

調査対象人数    PTA学校委員 48 人    提出数 45 人    (数値は割合)

A=そう思う    B=ほぼそう思う    C=あまりそう思わない    D=そう思わない    上段7月    下段12月

	評価項目	A	B	C	D
1	学校は教育目標や教育方針を保護者に伝えている。	70.8 55.6	27.1 37.8	2.1 4.4	0.0 0.0
2	学校は特色ある教育活動を行っている。(大明小学校の特色ある活動： ①地域と連携した教育②地域文化(大明小ばやし)の伝承 ③縦割り班 活動を中心とした児童会活動)	70.8 82.2	27.1 15.6	2.1 2.2	0.0 0.0
3	学校は、子どもが学習で努力したことを認めてくれている。	47.9 64.4	50.0 35.6	2.1 0.0	0.0 0.0
4	学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。	33.3 42.2	54.2 53.3	10.4 4.4	0.0 0.0
5	学校は、子どもの様子について連絡したことに、適切に対応してくれる。	62.5 60.0	31.3 18.0	4.2 2.2	2.1 0.0
6	学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。	35.4 37.8	45.8 55.6	16.7 6.7	0 0.0
7	学校からの文書や連絡等は適切である。	56.3 60.0	43.8 37.8	0 2.2	0 0.0
8	学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。	66.7 68.9	31.3 31.1	2.1 2.2	0 0
9	子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。	68.8 60.0	29.2 33.3	2.1 6.7	0 0.0
10	子どもは、学校生活の中で、豊かな心、生き方について学んでいる。	37.5 37.8	60.4 57.8	2.1 4.4	0 0.0
11	子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣が身についている。	37.5 35.6	47.9 46.7	12.5 17.8	0 0.0
12	子どもは、地域の中で、ルールを守っている。	31.3 33.3	68.8 62.2	0 4.4	0 0.0
13	子どもは、地域の行事へ積極的に参加している。	37.5 53.3	56.3 37.8	6.3 8.9	0 0.0
14	子どもは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。	29.2 22.2	66.7 55.6	4.2 20.0	0 2.2
15	家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。	37.5 37.8	54.2 55.6	8.3 4.4	0 0.0

回答なし1

回答なし1

## 保護者・地域と学校の連携について【自由記述】

### <学校教育・学校経営・学校運営について(設問1～設問8)について>

- 1 学校教育目標の一つである「命を大切にしようぶな子ども」が何より一番大切なことだと思っています。丈夫な身体がなければ勉強もスポーツも遊びも思う存分出来ません。内容はいろいろあるかと思いますが、中でも食育はとても大事だと思います。給食便りが毎月発行されていますが、内容豊富で親の私のほうがとてもいい勉強になっているので、毎回楽しみにしています。給食もおいしいようで、苦手な野菜がいくつかあるはずなのに、給食は今までほとんど残したことがないと子どもが言っているのです、是非これからもいろんなレシピを伝授していただけるとありがたいです。
- 1 学校は、毎年体力テストを行っていますが、その結果がどうなのか全体と比べてわが子はどの程度なのかを知りたいです。
- 2 毎年、文化発表会での大明小ばやしを楽しみにしています。「地域文化の伝承」これからも続けてほしいと思います。低学年では祖父母との交流があったかと思えます。祖母もとても楽しみにしています。ご近所づきあいがあまりなくなるこの時代に、地域の方々と接する機会も作っていただき交流できると良いですね。
- 3~6 3～6は、担任の先生では「そう思う」です。他のクラスのことは分からないので。大丈夫かな?と少し不安に受け取れる先生もいるので。
- 6 担任の先生が、子どもの性格を良く分かってくれて少しでも達成感や自己肯定感を高めようとしてくれているのが本当にありがたい。
- 8 不審者の報告がその日のうちに、なるべく早い段階でメールなどで知らせてほしい。と思うときがありました。おたより等でどのような指導をしていただいたかはよく分かりますが、もし、不審者が身近にいるのならと思うと最短の時間で知らせてほしいです。無理な部分や、学校のみでの対応というわけにはいかないと思いますが、市や警察の方にもお願いして防災無線などで注意を呼びかけるとかどうでしょうか。  
集団下校について、水曜日に集団下校でない日があったり、雨の日は集団下校を実施しないことかったりと、まちまちなので、水曜日は完全に集団下校をしてほしい。
- 12 以前、公園で自転車に子どもが乗っていたら、遠くの滑り台から長いおもちゃの鉄砲でビービー弾を顔や体に当てられたことがあり、注意をしたらやめました。(他のところをうっていました)
- 13 家でゲーム等をしていることが多く、外遊びが少ないことや近所の方との交流も少なくなっている現代社会において地域行事への参加は周りの人に子どもの顔を覚えてもらえる良い機会だと思います。行事への参加の本来の意味に加えてこのような考えでいます。それによってあいさつ等も自然に増えていってもらえたらもっとよいと思っている。
- 14 学校内では、低学年の児童から高学年の児童まで元気にあいさつをしてくれるのに、地域に出るところから声をかけないとなかなかあいさつしてくれません。

### <家庭・学校の連携について(設問15)について>

- 15 家庭でしかできないこと、学校でしか出来ないこと、協力できることがあると思います。それぞれがその場できちんと子どもに向き合っていくことが大切だと思います。
- 15 先生方が子どもたちを思い、対応していただいていることに心より感謝しています。しかし、今年の6年生はいくつもの問題に当たりました。そう考えたとき、クラス通信がなく、紡ぐファイルに保護者の感想を記載しても一度も先生からの返事もなく、一方通行ではなかったかと今は感じています。先生方も大変だと思いますが、毎週、毎日でなくていいので、個々に返事がほしかったです。

## 保護者アンケートの結果

- ・アンケート回収率 93%
- ・<設問2><設問3><設問4><設問13>が、1学期よりもA評価の割合が高い。
- ・<設問1>については、7月に比べてA評価が下がっている。
- ・<設問4><設問6>は、1学期C評価の割合が大きかったため、改善策を立てて取り組んだ結果、C評価の割合が減っている。
- ・地域の行事へ参加する子どもたちが増えている。
- ・<設問11><設問14>においてはC評価の割合が高い。基本的な生活習慣の確立・地域でのあいさつなどは依然として大きな課題である。

## 保護者アンケートの考察・改善策

**考察1** <設問3・4・6>は児童に対する教師の対応という内容の設問であるが、いずれも7月に比較してA評価が上がり、C評価が減っている。担任が子ども理解に努め、子どもの心に寄り添いながら学級運営をしている様子が保護者に伝わっているのではないかと考える。本年度は、校内研のテーマ「係わり合いながら学び合い、高めあう児童の育成」を目指して、QUテストの結果を活用しながら、学習集団としての学級集団づくりや課題を持つ児童への支援の方法などを研究してきた。学級の特徴をふまえながら、ルールづくりや言葉掛けの方法などの具体的な手立てを通して、温かい人間関係のある学級づくりを行ってきたことが少しずつ成果となって表れてきている。今後もさらに、研究を深めていくことが大切である。

**考察2** <設問1>の「学校は教育目標や教育方針を保護者に伝えている。」のA評価が10%近く下がってしまった。給食便りが楽しみであるという保護者の意見にあるように、学校で行われている教育活動は、教育課程の内容はもちろん、あらゆる活動が学校教育目標の達成につながっている。学校行事やPTA活動などもばらばらにあるのではなく、教育目標とどう関わらせながら実施していくのかという、担当者の意識がなくてはならない。行事をこなすということではなく、それが教育目標達成にどうつながっているのかを絶えず意識し、児童や保護者に伝える努力が必要である。

### <改善策>

学級をどんなねらいでどう運営していくのか、クラスの子どもの様子はどうなのか、学年通信だけでなく、たとえ回数は少なくても（月1回）担任の生の言葉・考えが伝わるように学級（学年）通信を出していくように務める。自由記述にも書かれているように、ともに子どもを育てるパートナーとして、担任と保護者の間の信頼と連携を深める意味でも大切なことだと考える。また、校務分掌が学校教育目標とどう関わっているのかが分かるようなイメージ図を作成し、見えるようにしておくことが効果的である。

**考察3** <設問11>の「子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣が身につけている。」のC評価が高い。1学期も同様の傾向であったが、あまり改善は見られない。それぞれの学年が学年PTA活動のひとつとして取り組んでいる項目であり、学校生活を生き生きと送るための基本となる。また、生涯にわたり、一日のリズムを自ら作れる力を育む上でも重要なことである。学校では給食指導や保健指導、家庭科の授業などを通して、基本的な生活習慣づくりに向けた指導を行っているが、各家庭の具体的な取り組みについてはなかなか伝わってこない現状がある。

### <改善策>

学級部会、学年懇談会などで各家庭の取り組み状況を情報交換するような機会をつくったり、学級通信などで紹介コーナーを作ったりするとよい。また、「家庭や地域でのあいさつの取り組み」とからめて、家庭から標語を募集し、あらためて各家庭に情報提供できるような機会を持つ。

**考察4** <設問14>「子どもは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。」については、C評価の割合が大きく増えた。児童会によるあいさつ運動は学校の中では大きな成果を見せているが、家庭や地域においては、なかなか改善につながっていないようである。7月に提案した改善策の取り組みがまだ実施できていないため、現在各家庭に呼びかけて「わが家のあいさつ運動」と「基本的な生活習慣づくり」についての評語を募集している段階である。それぞれの家庭で「あいさつ」について家族で話し合う機会を持つことが大切だと考える。また、自由記述にも書かれているように、顔や名前が分かるような地域のつながりが子どもの成長に大きな教育力を持つ。幸い、アンケート結果では、地域の行事に参加している子どもたちの割合が増えたことが分かる。（クリスマス会等があったためか？）家庭でのあいさつから始まり、あらゆる機会にあらゆる場所で取り組んでいくことが必要である。